

平成29年8月8日（火）現地ほ場で良質酒米生産を進めるために、生産者3名全員で「祝」と「京の輝き」現地ほ場を全筆巡回し、普及センターから、今後の水管理とカメムシ防除等の栽培のポイントについて説明しました。出穂した酒米のほ場は、草刈りも徹底され、作柄もまずまず良好でした。

大原野地域の酒米生産は4年目になります。今回の出席者全員の自動車には、京都酒米振興プロジェクト京都乙訓部会が作成した「京の米で京の酒を」のマグネットシートが貼り付けられており、良質の酒米生産に向けての熱意が感じられました。



軽トラにマグネットシート



「祝」ほ場で現地研修会



新発売の「藤袴」

なお、大原野産の「祝」で醸造し、今年6月に新発売された「藤袴」も、ほぼ完売の見込みです。普及センターでは、今後も仕上げに向けて巡回指導、技術情報の発行等を行って、酒米の収量・品質向上につなげていきます。